スキルアップ

板津中学校 研究通信

令和６年１１月２６日（火）　第５号

第2回校内研修会を終えて

先日の校内研修では，久保先生の授業を参観し，そこから気づいたことについて協議しました。しばらくたってから，中嶋先生より「板津中学校の生徒に力をつけさせるにはどのような指導が必要なのかについてグループごとにプレゼンテーションをしてください。」と伝えられました。「グループの４人が全員発表に関わる」，「メモは見てはいけない」，「2 分以内で」など発表のルールを指示され，それから 10 分間の発表準備の時間が設けられました。活動(協議)のゴール(グループごとのプレゼンテーション)について知ることで，その後の先生方の話し合いがより活発になったように感じました。授業において教師が最初にきちんと伝えておくことで，生徒たちが見通しを持って活動に取り組めることを実感できたのではないでしょうか。

今回の校内研修のために，授業をしてくださった久保先生，授業に向けての単元計画の練り上げや板書の工夫について話し合いを重ねてくださった英語科の先生方，本当にありがとうございました。先生方の感想を載せますので，今回の研修での学びを共有して今後の授業実践に生かしていきましょう。

前回の中嶋先生のお話からいろいろ授業改善を意識していたが，やはりできていなかったことを再確認できた。まず，今後の授業に生かしたい考え方は“生徒に探究させる”ということ。「教えたい」とばかり思ってつい説明口調になってつまらない授業にしてしまうことを大きく反省した。次に変えたい考え方は，生徒をモヤモヤさせて，分からない，分かるようになりたいと思わせることを授業の最後にしてもよいということ。そして，即興で自分の考えを話せるようにするために，何も見ないで時間内で喋ること。これらのことができるように教材研究を頑張りたい。

単元計画を立てるときに，ゴールから考えていくことは実践しているが，１時間ごとのつながりを逆算することまではできていなかったので，中嶋先生の，「のりしろ」を考えながら単元のつながりを意識して授業を組み立てていくというご助言が参考になった。また，生徒に負荷をかけ，それを乗り越えさせることを繰り返していくときに成長があり，学びが定着していくのだと感じた。

今回の研修で，あらためてゴールを設定することの大切さを理解することができました。ゴールを設定するときは，子どもが自分ごととして捉えることができるようにすることを第一に考えることが重要で，教科書の内容を教えようと思いすぎない。限られた時間の中でそこまでたどり着くには，授業のないように軽重をつける。軽重をつけるにはやはり教材研究を積み重ねることだと思いました。

単元計画の中に既習事項を入れる際には，小学校の分野を網羅しておく必要があることを学ぶことができた。

単元マップの作成や授業のゴール，授業の流れの提示を行うことで見通しを持たせていたつもりであったが，“単元の最後には”というところをあまり伝えられていないと感じた。授業のつながりを感じさせ，何のためにやるのかを常に意識させたいと思った。また，目標の達成をどのように評価するかでは，課題に対しての答えの書き方を工夫させることをしなければ，評価できないということを学び，自分の授業でできていないところだと思った。答えのあるものだけでなく，日常生活から持った疑問を自ら解決し，探究できるような活動を大切にしたい。

もやもや感や自分ができないことを把握することが大切という部分が心に残った。その時間でできるようになるとか，完璧を目指さないことも意識していきたい。
思考・判断・表現の部分は数学では数学ではデータの部分でイメージできるが，他の単元では他教科のような姿が具体的にイメージできないので，教科部会を通して考えていきたい。

逆算してゴールから考えること前回教わったのですが，なかなか思うように構想できませんでした。今回のお話を聞いて，マッピングやマンダラートなどを活用して頭を整理することを教わり，さっそくやってみようと思いました。

・のりしろを再度意識して単元計画を作成すること。
・教師がワクワクしていること。
・習得することまでは教師の仕事。
・前もって表現することをゴールにすると予告する。
・why を意識する。
・中間発表の場面を置く。

生徒に「事前に何を伝えておくか」をこれから意識していきたいと思いました。単元計画に基づき，どの場面で，どのように，どのくらい伝えるかを教師がしっかり意識して，ジグソーパズル型の授業スタイルにしていく必要性を学んだ。特に「何も見ないでプレゼンする」ということは経験して初めて大変さと大切さが分かるので，教師も定期的にやっていくといいと思いました。

久保先生の授業の中で，マッピングの使い方がとても勉強になりました。思考ツールについて興味が湧いたときに，中嶋先生からマンダラートのお話があり，とてもためになりました。思考ツールは万能ではないからこそ，単元を通してどこで使うかを考えることが大切だと感じました。
そして，生徒の可能性を信じて，事前にゴールを伝えることで，これまで以上の伸びしろが生徒にも自分にもあると思うことができました。

単元のゴールをイメージすることの大切さや，そのゴールに向かって毎時をつなげていく意識を持つことを学んだ。決して単元末テストで終わりにするのではなく，生徒に力がついたかが図れるようなゴールを設定していきたい。

◎これから取り組んでいきたいこと

・つけたい力が明確に伝わる，やる気を出させる，力が確実につくような発問，マネジメント
・単元全体を見通すことを大事にした授業づくり
・ゴールの姿(生徒にできるようになってほしいこと)を生徒と共有する
・単元構想から本時にどのようにつながりをもたせるか
・生徒に示す課題と展開時の問いのレベルが生徒にとって適度な負荷となるような，発問や資料の提示の工夫

教科部会で，単元計画の作成に取り組んでいきましょう。単元の最後に生徒に「つけさせたい力」を意識して，ゴールの姿に向かうために，１時間ごとに何が必要なのかを考えてみましょう。